

下庄をよくする会

1 基本データ

- 地区名 下庄地区
- 人口 9,255人（平成23年1月）
- 世帯数 2,910世帯（平成23年1月）
- 地区の沿革

下庄地区は大野市の北西部に位置し、昭和29年に2町6ヵ村が合併して大野市が誕生した時に、下庄町も大野市に編入されました。当地区は勝山市と隣接していて、奥越地区全体から見ると中心地域として、県立高校、警察署、土木事務所、奥越合同庁舎、健康保養施設（あつ宝んど）、郵便局等の官公庁等が集中しており、近年、複数の新たな商業施設も立地しています。また、中部縦貫自動車道の大野ICも当地区に建設され、国道157号大野バイパス（東縦貫線）も建設されています。

- 実施主体

下庄をよくする会

2 現状と課題

- 現状

- ① 地区内は、農家、非農家が混じり合っています。
- ② 地区の各区、各団体は、既にさまざまな地域づくり事業を、活発に行っています。
- ③ 新たな幹線道路、商業施設等に隣接した堂本、南新在家等では、区民が地場野菜の販売所を開くなどの新たな取り組みが見られ、その他の地区でも、矢の公園整備、陽明町の不動明王と御堂建替事業などの地域づくり事業を行っています。

- 課題

- ① 地区内においては、新たな幹線道路、商

業施設等に隣接し、人の往来が多くなる地域と、現状では人の往来の増加を望めない地域があり、堂本、南新在家のように地場野菜の販売所を区内で開くことが可能な地域と、困難な地域があります。

- ② 毎年10月に「下庄まつり」を、下庄公民館にて開催しています。平成22年は約900世帯・3,000人が訪れています。



まつりでは、地場野菜を販売する「青空市」及び、地区民がテントスペースにて不用品等を販売する「フリーマーケット」を行っていて、好評を博していますが、年1回のみで開催となっています。



- ③ 「下庄をよくする会」へは、地区内33区において「地区推進委員」を選任してもらい、委員として参加していただいておりますが、会議や活動への参加が低調な状況で

あり、一部の委員に大きな負担が掛っています。

3 事業の内容

地区の農林産物等の生産を拡大するとともに、地区民の交流を促進し、農林業の振興と地域活性化に資するための拠点施設を整備するとともに、地区推進委員に大きな役割を持ってもらって、積極的な参加をお願いし、定期的に地場野菜を販売する「青空市」、不用品等を販売する「フリーマーケット」を開催する予定です。

4 事業の成果

① 下庄公民館南側の敷地に、「青空市」「フリーマーケット」を開催する拠点を整備しました。



② 地場野菜の販売等についてのノウハウを学ぶため、奈良県明日香村での視察研修を実施しました。



③ チラシ、機関紙「下庄しるべ」等を通じて、拠点施設の名称を公募するとともに、農産物の出品者を募りました。施設の名称は16名の方から21件の応募があり、選考の結果、拠点施設の名称を「下庄青空市」に決定しました。農産物出品希望の方の応募も徐々に増えてきています。



5 今後の展望

平成23年度は、早い時期に、レジ・パソコン・販売システムソフト・ラベルプリンター等の必要な備品を購入し、引き続き活動体制を整備していきます。

まずは、平成23年6月頃から定期的に地場野菜を販売する予定です。

また、時期をほぼ同じくして、公民館敷地の市道を挟んだ南側に、大型スーパーマーケットの新規開店が予定されており、人の流れが更に多くなることが予想され、スーパーマーケット

との相乗効果を期待しているところです。

平成24年度中には、所期の目的である

- ① 地場野菜の販路拡大と地区民への提供
- ② 地区民の交流
- ③ 地区推進委員の積極的参加を促すことにより、新たな人材を発掘し、「下庄をよくする会」の持続的発展を確保する。

に資する一定の成果を上げることにより、中部縦貫自動車道の開通を見据えた中での、地域活性化につながるよう努めていきたいと考えています。